

2018年度の診療情報管理室はスタッフ3名（専従1名、専任2名）で業務を行った。

1. 退院患者疾病統計

退院患者数は前年度より減少し、1,407名（7名減）であった。

- 1位：損傷、中毒およびその他の外因の影響（21.2%）
 - 2位：消化器系の疾患（16.8%）
 - 3位：循環器系の疾患（16.0%）
 - 4位：新生物（腫瘍）（11.7%）
 - 5位：呼吸器系の疾患（11.6%）
- 上位5疾患で全体の7割以上を占めた。

ICD大分類	退院	割合(%)
1 感染症および寄生虫症	24	1.7
2 新生物（腫瘍） ★4位	165	11.7
3 血液及び造血系の疾患ならびに免疫機構の障害	18	1.3
4 内分泌、栄養および代謝疾患	39	2.8
5 精神および行動の障害	5	0.4
6 神経系の疾患	25	1.8
7 眼および付属器の疾患	0	0.0
8 耳および乳突突起の疾患	16	1.1
9 循環器系の疾患 ★3位	225	16.0
10 呼吸器系の疾患 ★5位	163	11.6
11 消化器系の疾患 ★2位	236	16.8
12 皮膚および皮下組織の疾患	16	1.1
13 筋骨格系および結合組織の疾患	48	3.4
14 泌尿器系の疾患	65	4.6
15 妊娠、分娩および産褥	0	0.0
16 周産期に発生した病態	0	0.0
17 先天奇形、変形および染色体異常	2	0.1
18 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	35	2.5
19 損傷、中毒およびその他の外因の影響 ★1位	298	21.2
20 傷病および死亡の外因	0	0.0
21 健康状態に影響を及ぼす要因および保健サービスの利用	27	1.9
合計	1,407	100

平均在院日数は前年度より0.3日短くなり30.8日であった。死亡率は前年度より1.6%上がり9.0%で、新生物が全体の38.1%と最も高かった。

退院患者の年齢は

中央値が81.0歳（2008年度：72.9歳）

平均値が77.3歳（2008年度：76.0歳）

と毎年上昇を続けており、高齢化を有意に表す結果となった。

2. 再入院率調査

6週間以内の予定しない再入院率を算出した。再入院率は在院日数の短縮が求められる中で、医療サービスの質を図る指標として用いられている。2013年度より調査開始。

対象：前回退院日から6週間以内かつ予定外の入院となった件数。

再入院の理由を下記の①～③に分類。

①一疾患の再発・悪化、②同一疾患の合併症発症、③他疾患の発症

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
再入院率(%)	6.3	12.5	6.0	8.8	13.2	9.2	8.8	9.6	7.6	7.8	6.9	5.8
①	4	6	4	2	3	6	6	4	5	5	2	2
②	1	2	0	2	3	3	3	3	1	1	2	1
③	2	6	3	6	9	4	2	4	4	4	2	4
2017年度	5.5	7.8	2.7	9.5	8.9	8.0	6.0	4.3	6.7	6.9	7.6	7.8
平均在院日数	29.7	32.2	30.6	29.8	33.9	26.8	26.6	31.3	26.4	30.0	32.4	30.6

以下の場合を除く

- ・計画的再入院（化学療法、輸血目的等予定された入院）、転院
- ・自己退院後の同一疾患での再入院
- ・ターミナルでの繰り返す入院

3. データ提出加算対応（DPC調査に準拠するデータ提出）

「地域包括ケア入院医療管理料」の算定に伴い、DPCデータ提出の届出が必須となり、様式1のデータ作成を行った。2018年度はデータチェック作業をシステム担当者より引き継ぎ、データ提出業務全般を行った。引き継ぎは順調に進み、遅延なくデータ提出を行った。また、看護必要度1→2への届出変更準備のため、チェック用データの作成等の支援を行った。

4. 診療録監査

毎月1回、入院診療録については全主治医について患者1名を抽出し、外来診療録については月に1診療科とし監査日直近に外来患者より無作為に抽出し実施した。12月より退院情報の記載についても監査を実施した。

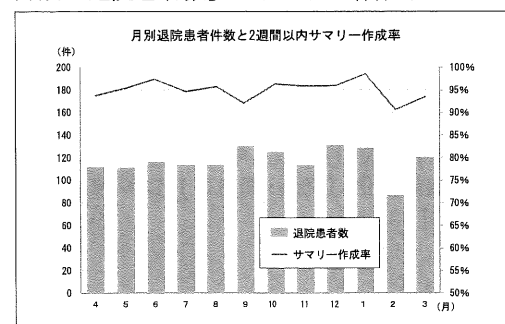
評価項目Aとして①入院時基本情報②入院診療計画書③経過記録④同意書関係⑤付箋の活用⑥手術記録⑦退院情報の7項目について監査を実施した。また評価項目Bとして全体的内容①十分で簡潔明瞭な記載②文字・略語・略字について評価を行った。

監査結果は各医師にフィードバックと医局会報告を行い、記載内容の充実した診療録作りに努めた。

5. サマリー作成率

退院後2週間以内のサマリー作成率は月平均で95.0%となり前年度より3.2%減少した。診療録管理体制加算1の算定要件として、退院後2週間以内の作成率が90%以上であることが必須。作成率90%を維持できたものの、低下傾向であった。次年度は作成率向上を目指したい。

月別「退院患者数」とサマリー作成率



6. 診療記録開示

2018年度は診療記録の開示依頼は9件。「B型肝炎給付金の訴訟」についての開示依頼が最も多かった。いずれも対象期間の診療記録の写しを提出した。

7. 全国がん登録

昨年に引き続き、全国がん登録のため登録作業を行った。12月に2017年診断症例134件をオンラインにより提出した。また、熊本県より2016年の死亡者新規がん情報に関する全国がん登録遡り調査の依頼が10件あり、オンラインにより提出した。

8. その他

10月に厚生局適時調査の対応を行った。また、厚生労働省が実施する病床機能報告について実績を取りまとめ、様式1を10月に提出し、様式2を1月に提出した。